# ソチオリンピックにおける新聞報道の分析
# 紀要３報

## ―スキー競技における伝統種目と新種目に着目して―

An Analysis of Japanese Newspaper Articles on the Sochi 2014 Winter Olympics (3)
～Focusing on “New Competition” and “Traditional Competition” in Skiing～

山本　清文（花園大学）・武内　麻美（玉川大学）

**要約**

本研究では、冬季オリンピックで増加しつつあるスキー競技に着目し、これまでの伝統的種目と長野オリンピック以降の新種目に分け、全記事面積、記事面積、写真面積とそれらを性別に測定し、新聞紙面の掲載面積の実際や傾向を把握することを目的とした。

１）伝統的種目45％、新種目55％と新種目の掲載面積の割合が高いことが分かった。

２）掲載面積の割合は、伝統的種目は男性が92％、新種目では女性が61％と高い値を示した。

３）全種目において伝統的種目のノルディック複合の掲載面積が最も大きく、２番目に男子ジャンプであった。全種目の中で２種目は特に掲載面積が大きかった。

## Ⅰ．緒言

冬季オリンピック（以下OG）は長野大会以降、フリースタイル、スノーボードなどの新しい種目が増えている。ソチOGでは、ジャンプ女子ノーマルヒル、フリースタイルのハーフパイプとスロープタイプ、スノーボードのスロープスタイルとパラレル回転、フィギュアスケート団体、リュージュのチームリレー、バ

イアスロンの混合リレーなどの新種目が加わり、OGごとに種目数が増加の一途をたどっている。

スキー競技には、アルペン、クロスカントリー、男子ジャンプ、ノルディック複合、フリースタイル、スノーボードの６つの種目があり、さらにフリースタイルは（モーグル、ハーフパイプ、スロープタイプ）の３種目、スノーボードは（パラレル回転、パラレル大回転、ハーフパイプ、スノーボード・クロス、スロープタイプ）の５種目、女子ジャンプと上述したように、近年スキー競技における新種目の数が増加している。

これまでOGの新聞報道に関する研究は様々なされているが、その内容は、日本選手団に関する新聞報道の動向[(1)]、報道のシステムや中継における研究[(2)(3)]、ガバナンス[(4)]、ジェンダー[(5)(6)(7)(8)(9)]、選手の弱さや課題[(10)]等の研究である。また、冬季オリンピックにおける新聞報道の研究は少なく、OGにおける招致に関する新聞報道の検討[(9)]などの研究があるのみである。新聞報道の面積と性別等の分析[(11)]は夏季OGに一部あるものの、冬季OGにおける研究[(12)]はほとんどないのが現状で、特に新種目における研究は皆無である。近年、冬季OGでは1998年開催の長野大会以降新たな種目が増加している。その新種目はスキー競技に多く、これまでの伝統的種目と新種目がどのように報道がなされているのか明らかにしたい。

そこで本研究では、近年増加しつつあるスキー競技の種目を伝統種目と新種目に分類し、性別に全記事面、記事面、写真面の掲載面積の比較から、特徴や傾向を把握することを目的とする。

## Ⅱ．研究方法

### ２．１　調査対象

大会期間中の（２月７日〔金〕の開会式から２月25日〔火〕閉会式の翌日までの19日間）の主要１紙（日本で１番の出版部数、約1000万部以上を誇る読売新聞の日刊）を対象に、一面およびスポーツ面におけるオリンピック関連記事（コラムは除く）の紙面の面積を測定した。その内容は、スキー競技を種目別に全記事面（記事面＋写真面）、記事面、写真面、を性別に男性、女性、両性（男女混合

種目、男女総合団体種目）に分類しそれぞれの掲載面積を測定し分析した。

## ２．２　分析方法

調査項目は、冬季OGスキー競技12種目の、全記事面、記事面、写真面をそれぞれ男性記事、女性記事、両性記事（男女混合種目、男女総合団体種目）に分類しそれぞれの面積を測定した。

①　種目の分類

伝統的種目はアルペン、クロスカントリー、ジャンプ（男子）、ノルディック複合の４種目であり、長野OG以降にできた種目フリースタイル（モーグル、ハーフパイプ、スロープタイプ）、スノーボード（パラレル回転・大回転）、ハーフパイプ、スノーボード・クロス、スノーボード・スロープタイプ、ジャンプ女子の８種目を新種目として分類し、12種目で測定した。

## ２．３　データの処理

データの処理は、Microsoft社のexcel　2010により項目ごとに、単純集計およびクロス集計を行なった。

## ２．４　スキー競技における日本人出場競技・種目及び参加人数

表１　日本人出場競技・種目と参加人数

| 競　技 | 種　目 | 男子<br>選手数 | 女子<br>選手数 | 種　目 | 男子<br>出場者数 | 女子<br>出場者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １．スキー | （１）アルペン | 2 | 0 | | | |
| | | | | 回転 | 2 | |
| | （２）クロスカントリー | 5 | 1 | | | |
| | | | | 4×10kmリレー | 4 | |
| | | | | スプリント | 1 | |
| | | | | チームスプリント | 2 | |
| | | | | パシュート | | 1 |
| | | | | 10km | | 1 |
| | | | | 30km | | 1 |
| | （３）ジャンプ | 5 | 3 | | | |
| | | | | ノーマルヒル | 4 | 3 |
| | | | | ラージヒル | 4 | |
| | | | | ラージヒル団体 | 4 | |
| | （４）ノルディック複合 | 5 | | | | |
| | | | | ノーマルヒル | 4 | |
| | | | | ラージヒル | 4 | |
| | | | | ラージヒル団体 | 4 | |
| | （５）フリースタイル | 3 | 7 | | | |
| | | | | モーグル | 2 | 4 |
| | | | | ハーフパイプ | 1 | 2 |
| | | | | スロープスタイル | | 1 |
| | （６）スノーボード | 5 | 3 | | | |
| | | | | ハーフパイプ | 4 | 1 |
| | | | | スロープスタイル | 1 | |
| | | | | パラレル大回転 | | 1 |
| | | | | パラレル回転 | | 1 |
| | | | | スノーボード・クロス | | 1 |

# Ⅲ．結果と考察

## ３．１　スキー競技における性別の全記事、記事、写真の面積と割合

スキー種目における性別の全記事、記事、写真の面積と割合を見てみると、全記事は男性全記事面積18995㎠（62％）、女性全記事面積10763㎠（35％）、両性全記事面積917㎠（３％）と、男性全記事面積が最も大きいことがわかった（図１）。

記事のみを男性、女性、両性別に面積と割合を見てみると、男性記事13555㎠（64％）、女性記事6911㎠（32％）、両性記事917㎠（４％）と、男性記事面積が女性記事面積の２倍の大きさがあることがわかった（図２）。

写真のみを男性、女性、両性別に面積と割合を見てみると、男性写真5440㎠（59％）、女性写真3852㎠（41％）、両性写真０㎠（０％）と、男性写真の面積が大きいことがわかった（図３）。

全記事、記事、写真のいずれの面積においてもスキー競技においては男性の掲載面積が大きいことが分かった。

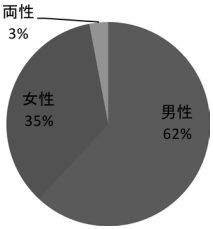

図１　全記事面積の割合

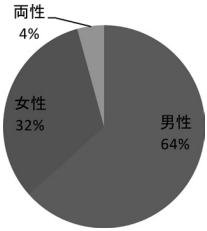

図２　記事面積の割合

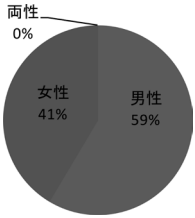

図３　写真面積の割合

## ３．２　伝統的種目と新種目における全記事の面積と割合

伝統的種目と新種目の全記事面積と割合を見ると、新種目が55％と伝統的種目の45％をわずかに上回ったことがわかった（図４）。出場種目から捉えると伝統的種目は13種目、新種目は９種目と伝統的種目のほうが多いが掲載面積が小さい。次に種目のメダル獲得数からみると全体で７個、その内訳は伝統的種目が銀メダル２個と銅メダル１個の合計３個で、新種目は、銀メダル２個と銅メダル２個の合計４個で、メダルの数では新種目のほうが銅メダル１つ多い。獲得メダル数から新聞報道を捉えると、メダル数の多さが掲載面積の大きさに影響を及ぼしたと考えられる。

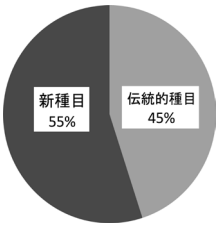

図４　伝統種目と新種目の割合

## ３．３　伝統的種目と新種目における性別全記事の面積と割合

伝統的種目における全記事面積を男性、女性、両性別に面積と割合を見てみると、男性全記事面積12809㎠（92％）、女性全記事面積495㎠（４％）、両性全記事面積545㎠（４％）と、男性記事面積が大半を占めることがわかった（図５）。

新種目における全記事面積を男性、女性、両性別に面積と割合を見てみると、男性全記事面積6186㎠（37％）、女性全記事面積10268㎠（61％）、両性全記事面積372㎠（２％）と、女性記事面積が最も大きいことがわかった（図６）。

伝統的種目は、男子の掲載面積が全体の90％以上と大半を占めており、新種目においては、男性より女性のほうが24％大きいことがわかった。伝統的種目は、女性の参加が１名と少なく、男性の参加は17名と多い。そして、出場している種目は女性クロスカントリーの３種目に３名の出場に対して男性は10種目に33名の参加であり、男子の成績は、銀メダル２個と銅メダル１個の合計３個のメダルを獲得していることから、大半の掲載面は男性であると考えられる。

新種目の参加者数は、男性８名、女性13名であった。出場種目は、男性は４種目８名の参加で女性は８種目14名の参加でであった。新種目の成績は、銀メダル２個（男女各１個づつ）と銅メダル２個（男女各１個づつ）の合計４個と同数のメダル獲得であったにもかかわらず、女性の掲載面積が大きい。これらは、新種目における女性の活躍や期待が男性より高い表れではないかと考えられる。

この結果から、伝統種目においては男性が、新種目においては女性が、それぞれ実力と結果、期待の高さが伺われると考えられる（表２）。

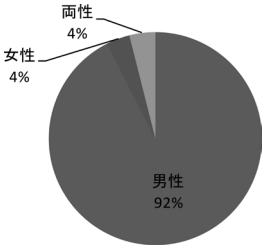


図５　伝統的種目における性別全記事面積の割合

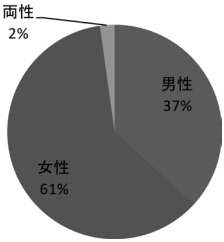


図６　新種目における性別全記事面積の割合

表２　伝統的種目と新種目における性別全記事面積と割合

| | 伝統的種目 | 新種目 |
|---|---|---|
| 男　性 | 12809（92％） | 6186（37％） |
| 女　性 | 495（4％） | 10268（61％） |
| 両　性 | 545（4％） | 372（2％） |
| 計 | 13849（100％） | 16826（100％） |

### ３．４　伝統的種目の全記事面積と割合

伝統的種目の全記事面積と割合を見てみると、アルペン1328㎠（９％）、クロスカントリー778㎠（６％）、ジャンプ男子5224㎠（38％）、ノルィデック6519㎠（47％）の合計13849㎠（100％）であった。ノルディック複合が47％で一番大きく、次いでジャンプ男子の38％とこの２種目で85％を占める割合であった（図７）。

成績ではジャンプ男子のほうが（個人で銀メダル、団体で銅メダル）良かったものの、ノルディック複合のほうが９％大きかった。これは、ノルディック複合は今大会日本初のメダル獲得種目であったため掲載面積が大きくなったと考えられる。この２種目は、これまでの大会の成績を鑑みても日本のお家芸ともいわれ期待されてきたことに成績があいまった結果であり、個人、団体ともに好成績をおさめたことの影響が大きいと考えられる。

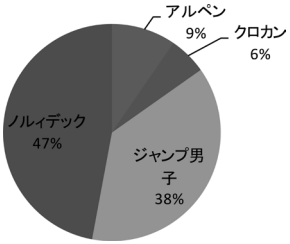

図７　伝統的種目の全記事面積

### ３．５　新種目の全記事面積と割合

新種目の全記事面積と割合を見てみると、フリースタイル・モーグル（以下図では：ス・モーグル）1421㎠（８％）、フリースタイル・ハーフパイプ（以下図では：ス・ハーフパイプ）1643㎠（10％）、フリースタイル・スロープスタイル（以下図では：ス・スロープ）30㎠（０％）、スノーボード・パラレル回転・大回転（以下図では：ボ・パラレル）3840㎠（23％）、スノーボード・ハーフパイプ（以下図では：ボ・ハーフパイプ）3533㎠（21％）、スノーボード・クロス（以下図では：ボ・クロス）1603㎠（10％）、スノーボード・スロープスタイル（以下図では：ボ・スロープ）2793㎠（17％）、女子ジャンプ1963㎠（12％）の合計16826㎠（100％）であった（図８）。

新種目の成績と新聞の掲載面積を見てみると、スノーボード・パラレル回転23％は女性１名で銀メダル、スノーボード・ハーフパイプ21％では男子２名で銀メダルと銅メダル、フリースタイル・ハーフパイプ10％は女性1名の銅メダルで、

３種目ともに、日本人初のメダル獲得であった。

また、メダルを獲得した種目でもスノーボード・パラレル回転とスノーボード・ハーフパイプの全記事面が20％以上と成績からみても理解できるが、フリースタイル・ハーフパイプが10％と、成績の低い種目であるスノーボード・スロープスタイル17％やジャンプ女子12％よりも全記事面積が小さいことが分かった。また、スノーボード・クロス９％、フリースタイル・モーグル８％とあまり面積が変わらない結果となった。これらの結果から、メダル獲得にかかわらず、期待を寄せられてきた選手のスポーツキャリア、競技種目においての役割や存在の大きさなど社会的にも影響を及ぼしてきた功績が、メダルの獲得のみならず掲載面積に反映しているのではないかと考えられる。

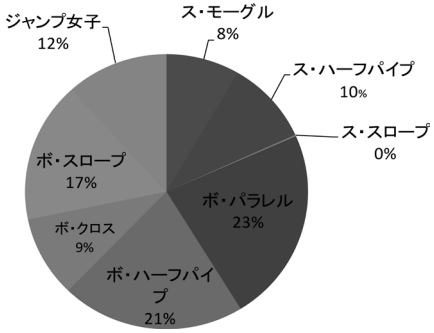

図８　新種目の全記事面積の割合

## ３．６　種目別の全記事面積の割合と性別全記事面積

種目別全記事面積と割合を図９の順に見てみると、アルペン1328㎠（４％）、クロスカントリー778㎠（３％）、ジャンプ5224㎠（17％）、ノルディック複合6519㎠（21％）、フリースタイ・モーグル1421㎠（５％）、フリースタイル・ハーフパイプ1643㎠（５％）、スキー・スロープスタイル30㎠（０％）、スノーボード・パラレル回転・大回転3840㎠（13％）、スノーボード・ハーフパイプ3533㎠（12％）、スノーボード・クロス1603㎠（５％）、スノーボード・スロープスタイル2793㎠（９％）、女子ジャンプ1963㎠（５％）の合計で30675㎠（100％）であった。

全体の割合が大きな種目を見てみると、ノルディック複合が21％と一番大きく、２番目がジャンプ男子の17％と２つの種目で38％と伝統的種目で高い割合を示した。次いで、スノーボード・パラレル回転・大回転13％、４番目にスノーボード・ハーフパイプ12％と新種目が続いた。これら４種目が10％以上で、全体の

63%をしめることが分かった。

性別で種目を見てみると、日本選手として男女ともに出場している種目は、クロスカントリー、ジャンプ、フリースタイル・モーグル、フリースタイル・ハーフパイプ、スノーボード・ハーフパイプの５種目であった。また、個人と団体種目で出場し好成績を収めているノルデック複合やジャンプ男子の伝統的種目の記事面積が突出していた。本研究の分類では、ジャンプ男子は伝統的種目で、女子は新種目に分けているが男女合わせると12種目の中で一番大きい記事面となっている。

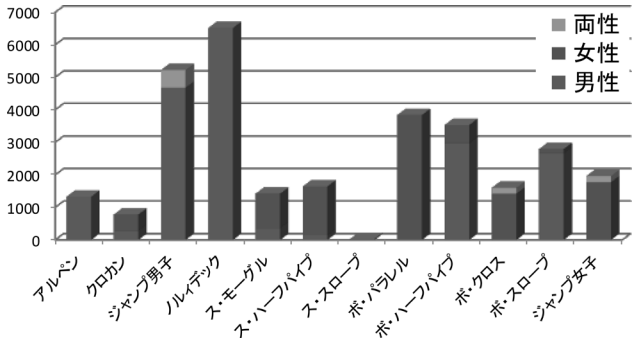


図９　伝統種目と新種目の性別全記事面積

## ３．７　種目別の記事面積の割合と性別全記事面積

種目別に記事面積と割合を、大きい順に見てみると、ノルィデック複合は4661㎠（22%）と１番大きく、次いで、ジャンプ男子が3907㎠（18%）と２番目に大きく、以下順に、スノーボード・パラレル2900㎠（14%）が３番目、スノーボード・ハーフパイプ2638㎠（12%）４番目、スノーボード・スロープ1892㎠（９%）５番目、ジャンプ女子1367㎠（６%）６番目、ス・ハーフパイプ991㎠（５%）７番目、アルペン899㎠（４%）８番目、スノーボード・クロス744㎠（３%）と９番目、フリースタイル・モーグル720㎠（３%）10番目、クロカン634㎠（３%）11番目、フリースタイル・スロープ30㎠（０%）の12番目であった（表３）。

伝統的種目のノルィデック複合とジャンプ男子の２種目で全体の30%と高い割合を示して、次いで、新種目のスノーボード・パラレル14%と、スノーボード・

ハーフパイプ12%と追随している。その他、５%以上の種目は、新種目でスノーボード・スロープ９%、ジャンプ女子６%、フリースタイル・ハーフパイプ５%の３種目であった。

伝統的種目は、ノルィデック複合とジャンプ男子、アルペンとクロカンと２極化していることがわかった。新種目ではスノーボード・パラレル14%とスノーボード・ハーフパイプの２種目が10%以上を示し、スノーボード・スロープ９%、ジャンプ女子６%、フリースタイル・ハーフパイプ５%と５%を以上の値を示し、新種目は全体的に分散型であることがわかった。次に、性別記事面積では男性記事13555㎠（100%）、女性記事6911㎠（100%）、両性記事917㎠（100%）と男性記事は女性記事の約倍近いことが分かった。種目別性別記事面積をみると全記事面積の特徴とほぼ同じである。種目別にみてみると、特にスノーボード・パラレル種目は、個人種目で一人の選手のみで2900㎠（14%）の記事面積は特に大きいことが分かった。

表３　種目別性別記事面積と割合

| 種　目 | 男性記事 | 女性記事 | 両性記事 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| アルペン | 899 | 0 | 0 | 899（4%） |
| クロカン | 261 | 373 | 0 | 634（3%） |
| ジャンプ男子 | 3362 | 0 | 545 | 3907（18%） |
| ノルィデック | 4661 | 0 | 0 | 4661（22%） |
| ス・モーグル | 176 | 544 | 0 | 720（3%） |
| ス・ハーフパイプ | 146 | 845 | 0 | 991（5%） |
| ス・スロープ | 30 | 0 | 0 | 30（0%） |
| ボ・パラレル | 0 | 2900 | 0 | 2900（14%） |
| ボ・ハーフパイプ | 2258 | 380 | 0 | 2638（12%） |
| ボ・クロス | 0 | 563 | 181 | 744（3%） |
| ボ・スロープ | 1762 | 130 | 0 | 1892（9%） |
| ジャンプ女子 | 0 | 1176 | 191 | 1367（6%） |
| 計 | 13555 | 6911 | 917 | 21383（100%） |

### ３．８　種目別の写真面積と割合

種目別に写真面積と割合を、大きい順に見てみると、ノルィデック複合1858㎠（20%）が１番大きく、２番目はジャンプ男子1317㎠（14%）、３番目はスノーボード・パラレル940㎠（10%）、４番目はスノーボード・ハーフパイプ895㎠（10%）、５番目はスノーボード・スロープ901㎠（10%）、６番目はスノーボード・クロス859㎠（９%）、７番目はフリースタイル・モーグル701（８%）、８番目はフリースタイル・ハーフパイプ652㎠（７%）、９番目はジャンプ女子596㎠（６%）、10番目はアルペン429㎠（５%）、11番目クロカン144㎠（２%）、12番目はスキー・スロープ０㎠（０%）であった（表４）。

性別写真面積では男性写真5440㎠、女性写真3852㎠、両性写真０㎠と男性の写真面積のほうが大きい。次に種目別の特徴を捉えると、新種目の写真面積はスノーボード・パラレル、スノーボード・ハーフパイプ、スノーボード・スロープ、スノーボード・クロスの４種目はほぼ同じくらいの写真面積であった。また、スノーボード・クロスの場合は記事面積の掲載は小さいが、写真面積では特に大きく掲載されていたことが分かった 。ソチオリンピックでは力を出し切れなかったが、トリノOGで正式種目となった初の日本代表で７位入賞と期待され、話題となった選手の影響もあったのではないかと考えられる。

表４　伝統種目と新種目の性別写真面積と割合

| 種　目 | 男性写真 | 女性写真 | 両性写真 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| アルペン | 429 | 0 | 0 | 429（5%） |
| クロカン | 22 | 122 | 0 | 144（2%） |
| ジャンプ男子 | 1317 | 0 | 0 | 1317（14%） |
| ノルィデック | 1858 | 0 | 0 | 1858（20%） |
| ス・モーグル | 194 | 507 | 0 | 701（8%） |
| ス・ハーフパイプ | 0 | 652 | 0 | 652（7%） |
| ス・スロープ | 0 | 0 | 0 | 0（0%） |
| ボ・パラレル | 0 | 940 | 0 | 940（10%） |
| ボ・ハーフパイプ | 719 | 176 | 0 | 895（10%） |
| ボ・クロス | 0 | 859 | 0 | 859（9%） |
| ボ・スロープ | 901 | 0 | 0 | 901（10%） |
| ジャンプ女子 | 0 | 596 | 0 | 596（6%） |
| 計 | 5440 | 3852 | 0 | 9292（100%） |

## Ⅳ．結語

１）伝統的種目45％、新種目55％と新種目の掲載面積の割合が高いことが分かった。

２）伝統的種目と新種目における性別の掲載面積の割合は、伝統的種目は男性が92％、新種目では女性が61％と高い値を示した。

３）全種目において伝統的種目のノルディック複合の掲載面積が最も大きく、２番目に男子ジャンプであった。全種目の中でこの２種目は特に掲載面積が大きかった。

### 参考文献


（１）粟木 一博ほか「バンクーバーオリンピックにおける日本選手団に関する新聞報道の動向について」『日本体育学会大会予稿集 』第62号、2011年237頁

（２）清水 義浩「シドニーオリンピックにおけるハイビジョン中継 」『映像情報メディア学会誌 : 映像情報メディア』 第55巻、第2号、2001年 199-202頁

（３）長野 健一郎「アトランタオリンピックハイビジョン中継システムについて：ハイビジョン新型中継車と番組伝送」『テレビジョン学会技術報告』第20巻、第48号、1996年、25-30頁

（４）中村 祐司「2008年北京オリンピック大会をめぐるガバナンス政策の特質--新聞報道を素材にして 」『都宮大学国際学部研究論集』 第26号、2008年57-62頁

（５）飯田 貴子「ジェンダー視点から検証したアテネオリンピック期間中の新聞報道」『スポーツとジェンダー研究』第５号、2007年、31-44頁

（６）飯田 貴子「シドニーオリンピックにおける新聞報道の分析」『日本体育学会大会号』第52号、2001年216頁

（７）Jim Urquhart and Jane Crossman,：The Globe and Mail Coverage of the Winter Olympic Games: A Cold Place for Women Athletes. Journal of Sport & Social Issues May 1999 23: 193-202,

（８）Laura Capranicaa, Carlo Mingantia, Veronique Billatb, Signe Hanghojc, Maria Francesca Piacentinia,：Newspaper Coverage of Women's Sports During the 2000 Sydney Olympic Games. Research Quarterly for Exercise and SportVolume 76, Issue 2, 2005：212-223

（９）Katherine N. Kinnick：Gender Bias in Newspaper Profiles of 1996 Olympic

Athletes: A Content Analysis of Five Major Dailies. Women's Studies in Communication　Volume 21, Issue 2, 1998
(10) 本間美和子ほか「1996アトランタオリンピック新聞報道から日本選手の弱さと課題を探る」『大学体育研究 』第19号、1997年、25-45頁
(11) 石塚 創也 はか「札幌オリンピック冬季競技大会における招致に関する新聞報道の検討―1960年から1966年における「北海道新聞」の記事分析を通して―」『日本体育学会大会予稿集』第63号、2012年、82頁
(12) 山本清文「ソチオリンピックにおける新聞報道の分析」『花園大学文学部研究紀要』第47号、2015年、115-138頁